



神田栄作

**水害、土砂災害に
対する対策は**

Q 災害警戒本部は風速、雨量等どのような状況になった場合に設置されるのか。

A 災害発生のおそれがあるときは、危機管理室を中心に準備体制を整える。大雨等の警報の1つ以上が発令されると、副市長を本部長とした「警戒体制」に移行し、市本庁に本部、また各支所に支部を設置し、防災関係機関等との連絡体制を整え災害に備えている。



災害警戒本部

**地域の障害者福祉は
どうなっていくのか**

Q 第4期障害福祉計画を策定するにあたっての市長の決意は。

A 関係者から意見を聴き、サービス利用を希望されている方の要望が少しでも多く実現できるよう取り組んでいく。



山田 誠

**眠れない
ゲリラ豪雨で米価下落**

Q 政府は農家所得倍増を目指しているが、農業資材は高騰、大幅な米価下落と不作、鳥獣被害の発生、まさに農家はトリプルパンチ。農村を取り巻く環境は年々厳しさを増している。市長はこうした状況を踏まえ、今後の農業振興をどのように進めるつもりか。

A 非常に厳しい状況の農業経営については、国の施策を最大限に活用して農業・農村を守りたい。また、2月に策定した市独自の成長戦略の基本方向にあるように、地元産品の6次産業化等による高付加価値化や、地域資源を活用したブランド化事業等、儲かる農業を目指し総合的に農業振興を進めていく。



こうべが垂れる稲穂

他の質問 防災対策



緑風会
西野修平

**「つやま和牛」振興の
旗揚げを期待**



つやま和牛を全国ブランドに！

Q 肥育の素牛となる仔牛は
どうするのか。

A 基本的には津山地域で生まれた仔牛に限定している。今まで各農家が繁殖し、松阪牛を初めとする有名ブランド牛の素牛として出荷されていた仔牛を市内で保留し肥育事業を行うよう調整中である。

**山の状況を把握する
取り組みを**

Q 山に人が入り常に山の状況を把握することが災害を未然に防ぐことにもなるのでは。

A 里山の保全管理について複数の団体が活動を行っており、今後取り組みの拡大と活動フィールドの提供等のできる支援を行っていく。